

第2学年 生活科学学習指導案

日時 令和2年7月21日（火）
 学年組 児童数 第2学年3組32名
 指導者 伊原 晶子

1 単元名 めぎせ野さい作り名人（教育出版 下）旧版

2 単元の目標

〈知識・技能〉

植物を継続的に栽培する活動を通して、植物が生命をもっていることや成長していることに気付いている。

〈思考・判断・表現〉

植物を継続的に栽培する活動を通して、植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。

〈主体的に学習に取り組む態度〉

植物を継続的に栽培する活動を通して、生き物に親しみをもち、大切にしようとしている。

3 単元の評価規準

観点 評価	ア 知識・技能	イ 思考、判断、表現力	ウ 主体的に学習に取り組む 態度
単元の 評価 規準	①自分の育てている植物が生命をもっていることに気付いている。 ②異なる植物にも、同じような特徴や性質があることに気付いている。 ③適切な方法で、植物の世話をしている。 ④自分が世話を工夫したことで、植物が大きく成長したことに気付いている。 ⑤自分が世話を工夫したことで、植物が大きく成長したことに気付いている。	①自分の育てたい植物を栽培する時期や場所などの条件で分類しながら、これから育てる植物を決めている。 ②1年生での経験や身近な人に聞いたことを基に、植物の成長の様子を思い描きながら世話の仕方を決めている。 ③発見カードから自分たちの野菜についてまとめ、他の野菜と紹介し合う活動を通して、自分が育てた野菜とその他の野菜を比べ、類似点や相違点を話している。	①育てている野菜の状況に応じて、詳しい人に世話の仕方を聞いたり本で調べたりして、世話の仕方を変えようとしている。 ②植物を育てることのよさを実感し、これからも継続的に生き物と関わろうとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元で扱う野菜の栽培は、学習指導要領では以下のように位置付けられている。

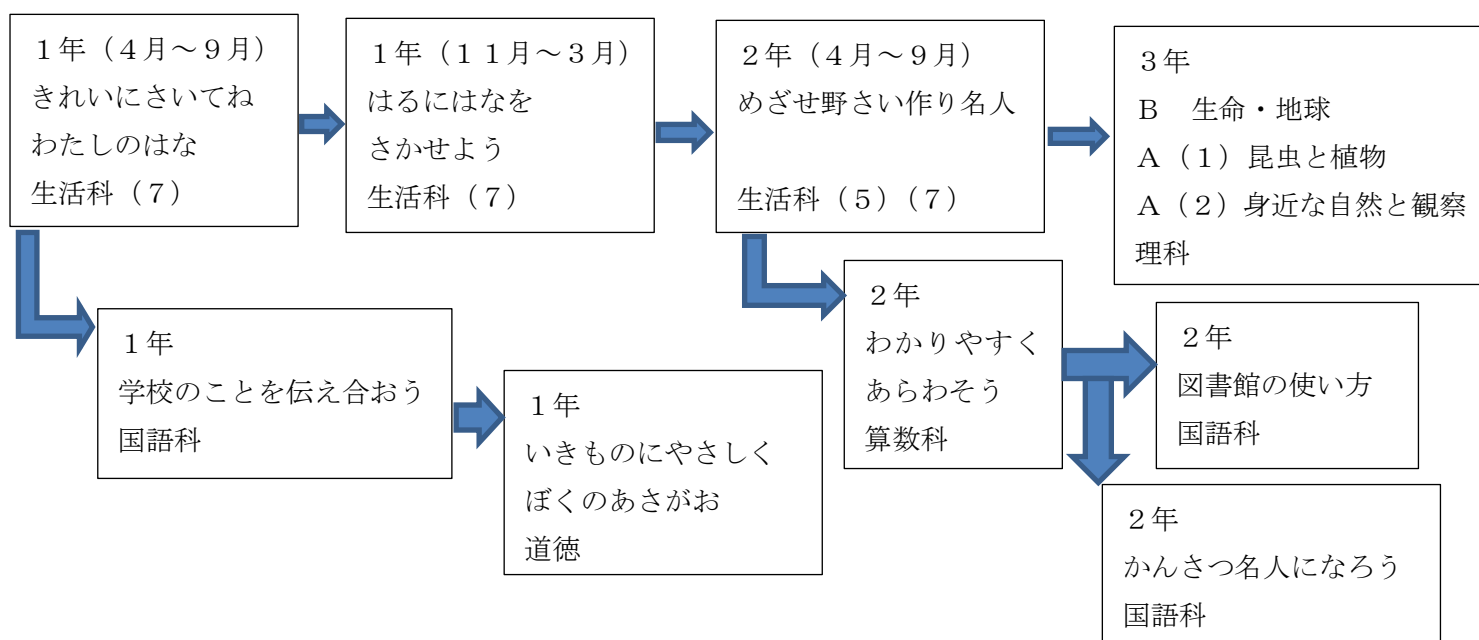
生活科の内容

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

本単元は、ミニトマトや野菜を自分からすすんで世話をしたり、収穫をしたりする活動を通して、植物に興味・関心をもち、これらが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物を大切にすることを養うことをねらいとしている。

1年生の活動では主に花（アサガオ）の栽培をし、成長の過程を観察・記録し、花の開花や種とりをして、生命のつながりを実感した。

本単元では、夏野菜を苗や種から栽培し、観察したり収穫をしたりする経験を通して、野菜の種類や季節によって収穫できるものに違いがあることを知り、栽培意欲や野菜への関心を高めていきたい。



(2) 児童観

本学級では毎日、ミニトマトの水やりなどを積極的に行う中で、少しずつ興味関心が出てきた。児童から「葉っぱが大きくなった」「花が咲いた」「実ができている」など、成長を楽しむ声も挙がっている。また、休校中に野菜を家庭で育てている児童も多く、野菜を育てたい気持ちが強い児童がいる。

しかし、花壇に、ピーマン、インゲン、エダマメ、ナス、オクラ、カラーピーマン、ミニトマト、二十日ダイコン、カイワレなどの野菜を育てているが、種まきや苗植えを児童が自ら行わなかったこともあり、興味が薄い児童も多い。そのため、野菜の成長を観察する中で、野菜が成長して変わっていく様子を同じ野菜を育てている児童と共有させたり、世話の仕方を考えさせたりするグループ学習を取り入れた。その中で困ったことやもっと知りたいことを本で調べたり、人に聞いたりして世話を実践し、より野菜に愛着をもたせていきたいと考えた。野菜の世話や観察

での個々の気づきをグループや全体に伝え合う活動を重ねながら、自分では気付かなかった類似点や相違点にも目を向けられるようにしていくことで、成長する野菜の生命を感じ、大切に育てていこうとする意欲を高めていきたい。

(3) 教材観

1年生の時に、アサガオを育てていく中で、成長の過程や観察、世話を行ってきた。2年生では、これらを活かし、さらに植物への関わり合いを深めるために、野菜を育てて収穫する活動を行う。その活動の中で、自分の思いや願いを達成していく楽しさを感じながら、活動への意欲を高めていく。同時にこれまでの栽培経験を基に、試行錯誤しながら、野菜を育てたり、他の野菜と比べたりして、観察や世話の仕方を自分なりに工夫する力を培う。また、野菜が生命をもち成長していることに気付くだけでなく、活動を通して自分自身も成長しているという喜びや、自分の力で栽培することができたという自信から、さらに植物の栽培に興味・関心をもたせていきたい。

5 研究主題との関連

(1) 低学年分科会が考える深い学び

生活経験と新しい知識をつなげて自分の考えをもち、互いの考えを比べ合ったり、認め合ったりして、よりよい考えをもつことができる姿。

(2) 本單元における深い学びの姿

- 野菜を育てていく中で気づきや疑問を友達に話したり、それを解決するための方法をどのようなやり方で調べたら良いかを考えて、聞いたり調べたりして、栽培活動に生かすことができる姿。
- 発見カードから自分たちの野菜についてまとめ、他の野菜と紹介し合う活動を通して、自分が育てた野菜とその他の野菜を比べ、類似点や相違点を話している姿。
- 野菜作りをして知ったことや分かったことを生かして、自分でも野菜を育ててみようという意欲をもつことができる姿。

(3) 深い学びに迫るための具体的な手立て

①単元・授業構成の工夫

- ・他教科とのつながり

国語科の「かんさつ名人になろう」で、観察の仕方や記録の仕方について学習したことを活かし、観察カードの記録をできるようにする。

食育「トウモロコシの皮むき」の時間に皮むきをしたり、根、茎、葉の様子が分かるトウモロコシを観察したりすることで、野菜や野菜の成長への興味や関心を高める。

- ・他の野菜への興味や関心をもたせる

自分の育てている野菜について友達と伝え合う活動を取り入れ、他の野菜についても興味や関心を高め育てたい意欲をもたせる。

②対話の工夫

- ・野菜の紹介カード

自分の野菜についての紹介ができるように、グループで自分たちの野菜についてまとめて、紹介カードを作り、誰もが自分の野菜について話すことができるようにする。

- ・少人数による野菜の紹介

3人グループを基本とし、自分の野菜の他に2種類の野菜について互いに話を聞ける場を設定する。説明を聞いた中で、類似点と相違点の気付きを書き、自分の野菜と比べての類似点と相違点を考えられるようにする。

③思考ツールの活用

- ・発見カードの活用

野菜の世話や観察を通して気付いたことや考えたことを、発見カードにまとめ、選んだ野菜ごとに継続して記録していくことで、自分たちの気付きを時間の変化を追って見えるようにする。

- ・シールによる分類

野菜の紹介のために、今まで記録した発見カードを、花、葉、実、世話の仕方などの観点にそって分け、色分けシールで分類する。成長の様子、植物の特徴、世話の仕方など観点に沿って色分けシールで分類することで、自分たちの野菜の紹介のまとめができるようにする。

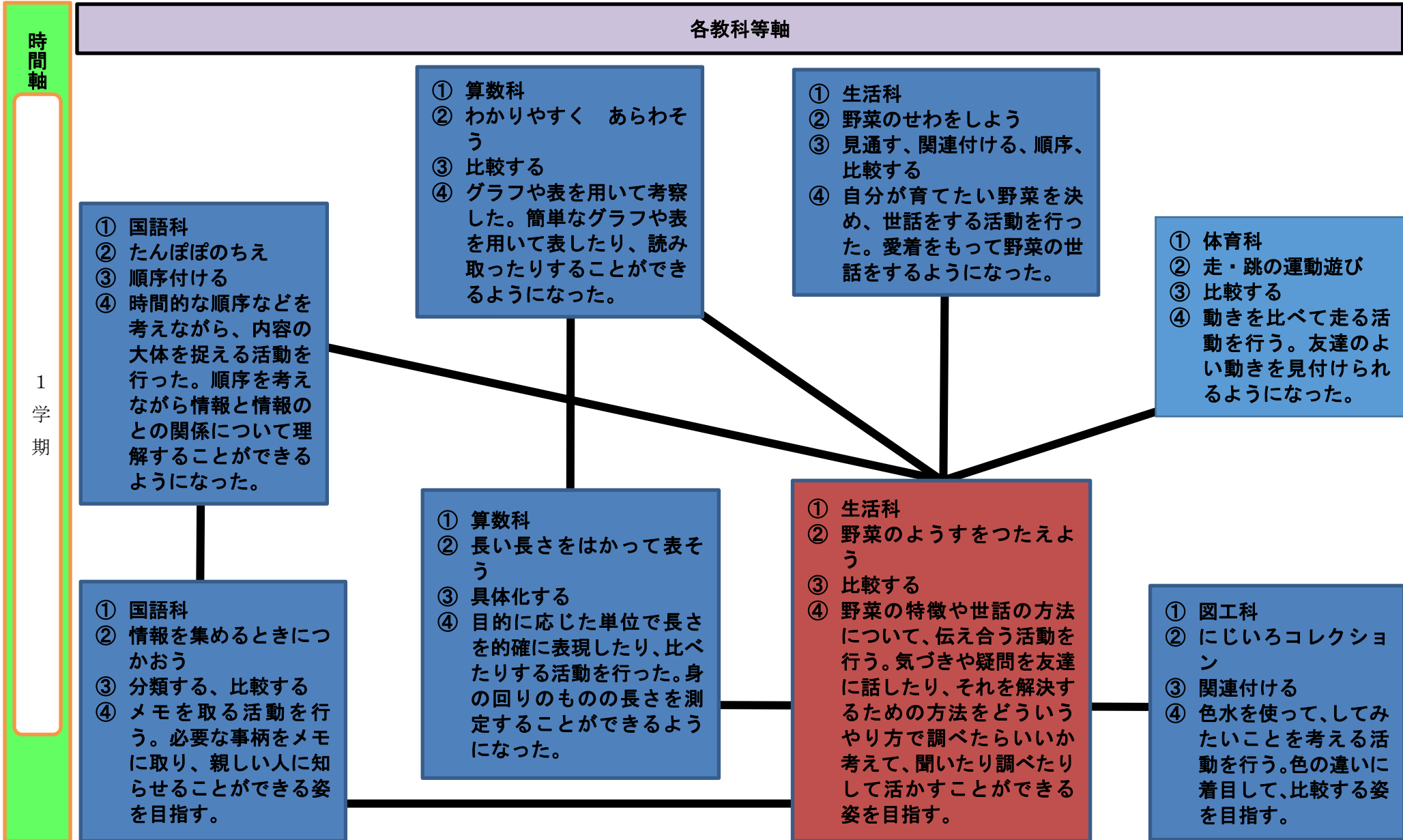
- ・Tチャートによる比較・分類

自分の野菜や他の野菜の似ているところや違うところについて、児童の発言を取り上げ、Tチャートを用いて比較したり分類したりする。

④リフレクションの活用

観察や世話を繰り返す中で、気付いたことを発見カードに記録したり、同じグループの友達と話し合ったりする中で、自分たちの活動を振り返り、次にどんな世話をしたり、世話の仕方を調べたり聞いたりすると良いかを考えたりできるようにし、気付きを深めることができるようにする。

6 教科等横断的思考スキル図



7 単元の指導計画と評価計画(全11時間扱い)

小単元	時	目標	○主な学習活動 ・児童の反応	◇評価規準・(評価方法)【 】
野菜をそだてよう	1 2	・植物を育てたいという思いをもち、自分の育てたい植物に興味をもつ。	育てたい野菜をきめよう ・1年生のときの経験を想起したり教科書を見たりしながら自分で栽培する野菜を決める。	・自分の育てたい植物を栽培する時期や場所などの条件で分類しながらこれから育てる植物を決めている。イ【思】
	3 4 5 6	・これまでの経験を基に、植物の成長の様子を思い描きながら世話の仕方を決め、植物の状況に応じて聞いたり調べたりして世話の仕方を変えていく中で、植物が生命をもっていることに気付くことができるようにする。	野菜やミニトマトを観察しよう ・ミニトマトを観察し、成長の様子を観察カードにまとめる。 ・決めた野菜を観察し、観察カードにまとめる。 ・国語の学習から、観察の視点を明確にして、ミニトマトの観察をより深める。 ・野菜の観察カードから、発見カードに、それぞれの野菜について特に気付いたことを明確にする。 ・同じ野菜同士、グループになり、野菜の様子を紹介し合ったり、必要な世話について話し合ったりする。 野菜の世話の仕方について調べよう。 ・野菜の世話の仕方を本で調べたり、人に聞いたりする。必要に応じた世話をする。(草取り、芽かきなど) ・野菜の世話で実行して成功したことや、うまくいかなかったことなどをグループで共有する。	・自分の育てている野菜が成長していることに気付いている。ア【知】 ・1年生での経験や身近な人に聞いたことを基に、植物の成長の様子を思い描きながら世話の仕方を決めている。イ【思】 ・育てている野菜の状況に応じて、詳しい人に世話の仕方を聞いたり、本で調べたりして、世話の仕方を変えようとしている。ウ【態度】 ・適切な方法で植物の世話をしている。ア【知】
食育	7	・トウモロコシの実の付き方を見て知ることができる。	・トウモロコシの実の付き方について知る。	・実のなりかた・大きさや手ざわりなどに違いがあることに気付いている。ア【知】

野菜をしゅうかくしよう	8	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を栽培して収穫する中で、自分が世話を工夫したことで植物が大きく成長したことに気付くとともに、植物を育てることのよさを実感し、これからも継続的に生き物と関わろうとすることができるようになる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">野菜を収穫しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 熟した野菜を収穫する。 収穫したときのことを紹介し合う。 書き溜めていた記録カードをまとめ、友達と紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が世話を工夫したことで、植物が大きく成長したことに気付いている。ア【知】 植物を育てることのよさを実感し、これからも継続的に生き物と関わろうとしている。ウ【態】
野菜のことを伝え合おう	9	<ul style="list-style-type: none"> 育てた植物について紹介し合う中で、異なる植物にも同じような特徴や性質があることに気付くことができるようになる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">野菜のことを伝え合おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 自分の野菜について育てている野菜の成長の様子や今までの世話の仕方について紹介カードを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに育てた植物を振り返りながら、特徴について話している。イ【思】
	10		<ul style="list-style-type: none"> 自分の野菜について育てている野菜の成長の様子や今までの世話の仕方について紹介カードを作る。 	
	11 (本時)		<ul style="list-style-type: none"> 説明し合うことで、自分の育てた野菜とは違う野菜について、相違点に気付き、さらに野菜について興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 発見カードから自分たちの野菜についてまとめ、他の野菜と紹介し合う活動を通して、自分が育てた野菜とその他の野菜を比べ、類似点や相違点を話している。イ【思】

8 本時の学習

(1) ねらい

友達と自分の野菜の成長の様子や世話の仕方を比べ、類似点や相違点を話すことができる。

(2) 展開

時間	○主な学習活動 ・児童の反応	□指導上の留意点◇評価規準
導入 2	○本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の野菜と似ているところや、違うところを見つけよう。</div>	□前時までに紹介カードを準備する。 □本時のめあてを明確にする。
展開 ① 1 5	○自分の野菜のことについて3人グループで伝えたり、友達の野菜について聞いたりする。聞いたことから、自分の野菜と類似点や相違点を書く。 ・インゲンはたくさん実ができた。上のほうに実がなる。 ・オクラは黄色の花が咲いた。実が上を向いている。 ・ナスはまびきした。花は、紫色。 ・ピーマンは白い花が咲いた。たくさん実がなった。	□聞くときは、自分の野菜と他の野菜の類似点や、相違点に注意して聞かせる。 ◇自分の野菜と他の野菜の類似点や相違点に気付いている。 ア【知・技】(発表)
展開 ② 1 8	○交流した中で、類似点や相違点を全体に発表する。 似ているところ ・トマトとナスの花の形が似ていたよ。 ・どの野菜も水やりや、肥料をあげていたよ。 ・どの野菜にも花が咲いた。 違うところ ・エダマメは1回しか収穫できなかったが、インゲンは何度も収穫できたよ。 ・花の色はみんな違う。 ・実のつき方がオクラは上向きだったけど、トマトは下向きだったよ。	□Tチャートを使って、児童の気付いた点を分かりやすく板書する。 ◇自分が育てた野菜とその他の野菜を比べ、類似点や相違点を話している。イ【思・判・表】 (ワークシート)
終末 1 0	○本時の振り返りをする。 ・他の野菜を育ててみたいな。 ・他の野菜のことを知ることができてよかった。	◇他の野菜に興味をもつことができた。

(3) 板書計画

いろいろなやさいのことを知って、もっとやさい名人になろう。

じ分のやさいと にているところや
ちがうところを 見つけよう。

にているところ	ちがうところ
<ul style="list-style-type: none"> ・「み」は「花」の後にできる。 ・水や太ようが ひつよう。 ・虫がつく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花の色や形がちがう。 ・「み」のつくところがちがう。 ・「み」のなる数がちがう。

9 資料

めざせ野菜作り 上きゅう 名人へのみち!

2年

じぶんのやさいとくらべて、にているところやちがうところを見つげよう。

「かいほつ」とくらべて にているところやちがうところ
かういというところがちがいます
 くさの色がちがいます。
 ピーマンと夫とちがいます。
同じところはありません...

「インゲン」とくらべて にているところやちがうところ
 花はとちがうところがちがいます。
 上にいいはいいはピーマンとちがいます。
 表裏はいいはいいはピーマンとちがいます。
ことぜんぜんちがいます。


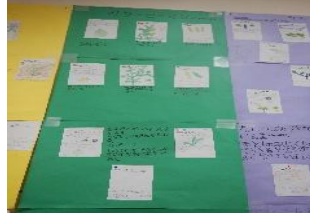
今日の学しゅうをふりかえって


本がちのしゅうが地ちて 思ったこと・考えたこと・気がつたこと
 もっと思ひにこと・やってみよこと

めざせ野菜作り名人だと思
 います。
 いろいろなめざせでちがうところ
 ちがうところがあるのか
 がわかりました。もっとほかの
 やさいのことをしりた
 いです。
 もっとほかのやさいをそだて
 てみたいですね。

「かいほつ」
 表ににべらにしているところはちがいます。
 表と裏はちがうところはちがいます。
 表と裏はちがうところはちがいます。

10 <成果と課題>

	成果	課題
目指す深い学びの姿について	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回の野菜の観察に、発見カードを用いたことで、様々な視点についてよく観察したことで、気づきが深まった。 ○最後の学習で、自分の野菜だけでなく他の友達の野菜のことについて知ることができ、他の野菜に興味・関心をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> △発見カードを掲示してあったが、本時で活用する場面があると良かった。 →手元に発見カードのコピーがあると良い。
深い学びの姿に迫るための具体的な手立て	単元・授業構成の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ○繰り返し発見カードに、気付いた点を記録していったことで、観察する視点が明確になった。また、国語科「かんさつ名人になろう」で観察の仕方を学んだこともあり観察の仕方がより充実したものになった。 ○自分の育てている野菜について友達と伝え合う活動を取り入れたことで、もっと他の野菜を育ててみたいと意欲をもたせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> △動機付けとして野菜名人になりたいというのは、子供発信ではなかった。 →野菜のひみつを知りたい、はかせになりたいなど児童主体のテーマになっていると良かった。 
	思考ツールの活用 <ul style="list-style-type: none"> ○野菜の世話や、観察を継続的に行ってきたことで自分たちの気づきを深めることができた。 ○野菜を紹介するために、花、葉、実などシールで分類したことで自分たちの野菜の紹介のまとめが明確にすることができた。 ○板書に、Tチャートを使い自分の野菜と他の野菜の類似点や相違点を比較したり分類したことで、新たなことに気付くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> △本時に思考ツールを使用するのではなく、単元指導計画の中で別の時間に活用すると良かった。 →本時のところで、思考ツールを使わずに前時や他の時間に思考ツールを活用すると良かった。また、簡単な表にして、実、葉、色、形などを○や×など記号でまとめると良かった。 
	対話の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ○自分の野菜について紹介できるように、グループで自分たちの野菜についてまとめ紹介カードを作ったことで、どの児童も野菜について話すことができた。また、話す観点を絞ったことで、話を聞く相手も自分 	<ul style="list-style-type: none"> △葉、実、花などの観点が多く、もっと絞られていると良かった。 →話す側、聞く側の観点が違っていたので、同じ観点になっていると両方分かりやすくなって更に良い。

		の野菜と他の野菜の違いに気付く ことができた。	
	リフレクシ ョン	○観察したことを発見カードに記録 し、グループで話し合ったことで、 新たな気づきを発見することがで きた。	

<講師の指導・講評>

国士舘大学 教授
藤井 千恵子先生

○授業について

- ・6月の終わりぐらいからの研究授業の準備で大変すばらしい。
- ・今日の授業でおもしろかったのは、虫がでたことである。子供は、こんなところをみているんだなと思った。大人は花の色などに注目するが、子供は、虫がつくつかつかないか。子供の気付きっていうのはおもしろい。
- ・ミニトマトの花はそりかえっている。とても特徴をとらえた話ができ素晴らしい。子供たちは、何でも気付いたらいいよという焦点化が必要となる。このような気付きはたくさんあっていいので、どうやってまとめればいいのかを考えていく。
- ・自慢したあと、似ている違うところを言うぐらいでもよかった。2年生なりのつなぐ。互いの考えをつなげていく、子供を育てていければ良い。
- ・野菜名人のよりよい考えは何かを考える。家に畑はないので、学校でやる意味がある。先生が手伝ってもいいから、少しでもいいから野菜を育てる研究をしたことは良い。
- ・野菜は自分の野菜で、スキルや技能が育てるのに必要である。栽培の活動の意義や価値はどこにあるのかということ問い続ける。自分が関わったことで野菜が育つという経験が必要である。虫退治をしていけば野菜が育つ。いつもやってくれる経験しかない。自分で育てる野菜に責任をもつ。そうすると、虫がついた葉っぱをとらなければいけないのかな、取ったら野菜は育つのかと考えることが大切である。食べるだけになってしまうのではなく、プロセスを実体験しながら分かるように仕向ける。
- ・子供のポイントを逃さず、子供の野菜と一緒に育てる。それを一つ一つ見取っていく。聞いて欲しい願いや、見てほしい願いが日常的に行われていることが、私の野菜を発表したいということにつながる。私の野菜自慢ということでやっていければ良い。植物の成長過程は思い通りにならない。そういう世界を体験させたい。挫折感を味あわせる。そういう意義が栽培にはある。
- ・今回は、横のつながりはあったが、縦のつながりがなかった。3年、4年、5年にどうつながるのからと考えながら、やっていければいい。この単元はどういうふうにつながっているのかと考えながらやっていく必要がある。5年になったときに「花の後に実ができたよね」と思い出せる。
 - ・生活科は知識技能の基礎と書いてある。基礎とは、他の教科はない。「未知の状況に対応できる。」思考判断表現ということになる。やったことを次に使えるということ意識して子供を育てたい。3つの資質能力から、どんな子供を育てたいか教材解釈ができる。交流を行い、新たなつながりにする。
- ・他の野菜と違うことを比べられる。最後に、類似点、相違点を理解する。次にこういうお花を育てたいという見通しがみられると思う。

○思考ツールについて

- ・枝豆自慢やオクラ自慢で良かった。まとめ方が花、実などと整理して観点をしばって書けば良かった。まとめ方は野菜の絵をマトリクスにして、花がついたら○、つかないと×というまとめ方が良かった。